

# 変異株 感染207人

感染力の高さやワクチンへの影響を懸念されている新型コロナウイルスの変異株について、2月26日までに国立感染症研究所で確認された変異株の感染者数が計207人となりました。

検疫で変異株の感染が判明した海外からの帰国者などほか、海外渡航歴のあるほか、海外渡航歴のある

人の接觸歴のない人から確認される事例も発生しています。変異株は従来の株より感染力が強いと言われ、新たな感染拡大を引き起こす危険があり嚴重な注意が必要です。

政府の基本的対処方針諮問委員会の尾身茂会長は26日の記者会見で、「従来株と変異株が入れ替わっていく可能性があるのではなく、そのプロセスは始まっている」と懸念を示しました。

国内で初めて変異株の感染が確認されたのは昨年12月25日でした。英国からの帰国者が空港検疫で陽性と確認されたものです。

厚労省によると変異株の検出については、全国の自治体で実施されている新型コロナのPCR等検査で陽性が判明したもののがかかる、それぞれ5~10%ほど

で含めて20人でした。

1月18日には静岡県で海外の滞在歴がない、感染経路が不明な感染を3人確認しました。その後、首都圏、京阪神地域を中心に各地で感染が確認され、2月には1月までの2倍以上に。国内での感染の割合が増加しています。

これまでに発見された変異株の感染は、ほとんどが英國株か南アフリカ株でしたが、ブラジル株の感染も7例見つかっています。

厚生労働省の発表をもとにした本紙の集計では、30~40歳代を中心とする年齢でも感染が広がっていることがわかりました。26日までに変異株への感染が判明した207人（年齢非公表は42人）のうち、30歳代が40人と最も多く、次いで40歳代の38人、10歳未満と20歳代は20人、50歳代の19人、

10歳代の10人と続いていま

す。一方、重症化リスクが

高い60歳代以上は90歳代ま

で含まれて20人でした。

厚労省による変異株の

検出については、全国の自

治体で実施されている新

型コロナのPCR等検査で陽

性が判明したもののがか

かる、それぞれ5~10%ほど

のスクリーニング検査を行

い実施しています。変異株

の陽性が確認された場合

は、その濃厚接触者などに

加えて検査対象を拡大して

集中的にPCR検査を実施

しているとしています。

現在の感染状況につい

て、国立感染症研究所は「新

型コロナウイルスの新規変

異株について（第6報）」

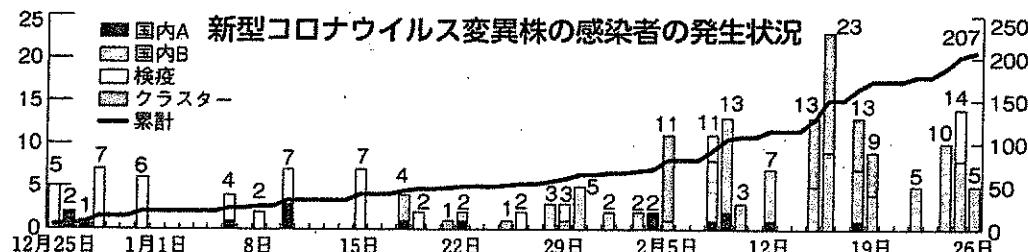
（2月12日時点）で、「現在

の検出は限定的であるが、

国内のまん延状況は過小評

価されている可能性があ

る」と指摘しています。



厚生労働省公表データをもとに集計、単位=人。「検疫」は入国際際の検疫で陽性と判定された人、「国内A」は入国後に陽性と判定された人またはその接触者、「国内B」は帰國者以外からの国内感染または感染ルート不明、「クラスター」は2件のクラスター（埼玉県の児童関係施設と新潟県の保育所）での感染者

## 2月はそれ以前の倍 感染研「過小評価」を警告

1月18日には静岡県で海外の滞在歴がない、感染経路が不明な感染を3人確認しました。その後、首都圏、京阪神地域を中心に各地で感染が確認され、2月には1月までの2倍以上に。国内での感染の割合が増加しています。

これまでに発見された変異株の感染は、ほとんどが英國株か南アフリカ株でしたが、ブラジル株の感染も7例見つかっています。

現在の感染状況について、国立感染症研究所は「新規コロナウイルスの新規変異株について（第6報）」（2月12日時点）で、「現在の検出は限定的であるが、国内のまん延状況は過小評価されている可能性がある」と指摘しています。